

## 「イチロー3000本へ！」



帰ってきた指定席！ #15

7月23日(日本時間)の時点でMLB通算3000本まで、あと4本と迫っているイチロー、まもなく偉業達成の瞬間がやってくる。もうこれに関してはすごいとしか言いようがない、まだ3年位は普通にやれそうですね。あとはワールドシリーズで見たい…と思うのです。

### 「1+2C」クラス(1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc~1850ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス)

今大会はポイント増量の4時間戦。第2戦で欠席した、チャンピオンチームの#15「IDI KAMCO★FIT」が参加、現在連勝中の#21「ZEST ルブロススターレット」、こここのところ速さを増している#411「AITAC スイフト」とガチバトルが期待される。他にはTファクトリーがGDフィットで参加するなど全7台。EN(エンジョイ)クラスは開幕戦の1+2クラスから替わったアンリミテッドチームがシビックで参加、#77のロードスターとあわせて2台。4時間の長丁場の先に栄光をつかむのはどのチームか！

#### ■予選

予選トップは#15「IDI KAMCO★FIT」が1'04.318で貫禄を見せつける。2番手には#411「AITAC スイフト」1'04.753、3番手#21「ZEST ルブロススターレット」1'05.363と3強が揃い踏み。

しかし、4番手#45「Tファクトリー&KRS フィット」も1'05.758と僅差で続き、5番手#107「ウエリース ロードスター1号」1'05.830までが05秒台、真夏の屋下ガリのタイムとしては十分以上の速さ。

6番手は今季初参加、マーチ12SR(シブい!)の#870「MSCJ 東海マーチ」1'07.751、8番手は兄弟チームの#50「MSCJ 奈良ロードスター」という予選。連勝中の#21「ZEST ルブロススターレット」にはMax40キロのウエイトが積まれる、もともとが軽量の車両だけにコイツは厳しいか。

ENクラスはトップが#77「ウエリース ロードスター2号」1'07.305、2位は#12「アンリミ&今井製置シビック」1'11.308。

ENクラスにもウエイトルールはあり、#77「ウエリース ロードスター2号」には20キロとなっている。



自己最高位 #411



ポイントリーダーは守った #21



表彰台まであと一歩 #107



# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■序盤

さあ始まった3強の争い、序盤から激しいぞ。まず最初のステイントの速さ比べは#411「AITAC スイフト」。それを追うのが#15「IDI KAMCO★FIT」、#21「ZEST ルブロススターレット」。さらに#107「ウエリース ロードスター 1号」ここまでが同一周回。

第2集団は#870「MSCJ 東海マーチ」と#50「MSCJ 奈良ロードスター」、その後ろに#45「T ファクトリー & KRS フィット」が続く。

EN クラスでは#12「アンリミ&今井製置シビック」が序盤リード、#77「ウエリース ロードスター 2号」が後ろにまわり、長いレースの始まりだ。



12SR なかなかかっこいいぞ #870

## ■中盤

中盤でも三つ巴の争いは続く、若干#15「IDI KAMCO★FIT」優勢だが、いまのところ1Lap 程度の差。#21「ZEST ルブロススターレット」と#411「AITAC スイフト」はつかず離れずといったところか。時おり#107「ウエリース ロードスター 1号」がそれに絡むといった展開、まだまだ中盤。

中団では#45「T ファクトリー & KRS フィット」と#870「MSCJ 東海マーチ」がほぼおなじペースで競り合い、それに#50「MSCJ 奈良ロードスター」が続いている。



今大会は黄色のマシンが多かった #50

EN クラスではこの時点でも#12「アンリミ&今井製置シビック」がリード、#77「ウエリース ロードスター 2号」が追いかける構図は変わっていない。

## ■終盤

終盤になって#15「IDI KAMCO★FIT」が首位固めを図る。ゴールまで残り1時間で146Lapを走行、全体でも3番目。2位は#411「AITAC スイフト」144Lap、ここは置いて行かれたくない。3位は#21「ZEST ルブロススターレット」143Lap、やはりウエイトが効いているのか、タイムが伸びない。今回もサードドライバーとして乗り込んだ田中選手によると「乗り出しから、曲がり弱い感じ、重さを感じますね」とのこと。

4位は#107「ウエリース ロードスター 1号」142Lap、この辺りまでが表彰台争いか。

5位は#870「MSCJ 東海マーチ」135Lap、6位#45「T ファクトリー & KRS フィット」135Lap、#50「MSCJ 奈良ロードスター」133Lap、こちらも僅差の争い、まだまだ順位が変わる可能性も。



懸命の修復でチェッカー #45

EN クラスは#77「ウエリース ロードスター 2号」が逆転して158Laps、#12「アンリミ&今井製置シビック」はオイル漏れからカストレートで白煙、その後ターン1でマシンを止め127Lapでレースを終了。



さらに1+2の#45「T ファクトリー & KRS フィット」にもトラブルが襲う、こちらもオイル漏れのようにピットインから応急処置へ・・・チェッカーまでにはなんとか修復できるのか？

# Race Report

GT-CAR PRODUCE

## ■最終結果

長かった真夏の4時間バトルもいよいよエンディング、#15「IDI KAMCO★FIT」が中盤に奪ったトップのザを守りきりチェッカー、最後は2Lap差をつける勝利。2位は#411「AITAC スイフト」、開幕戦の3位を上回り自己最高位の2位を獲得。3位は#21「ZEST ルブロススターレット」、連勝中の勢いも、ウエイトが文字通り重さとなったか、しかし大きなミスもなく走り切ったことでポイントは上積み。4位は#107「ウエリース ロードスター 1号」、第2先に続きまたも4位、表彰台まではあと一歩が続く。

5位#870「MSCJ 東海マーチ」、6位#50「MSCJ 奈良ロードスター」、姉妹チームが続き、最後は#45「T ファクトリー&KRS フィット」。最終Lapになんとかマシンを送り出し、スローペースながらチェッカー、まるでルマンの光景を見るようだったが見事完走。

ENクラスは#77「ウエリース ロードスター 2号」、最後は1台走行となったが気を抜かずチェッカー。#12「アンリミ&今井製置シビック」はわずか1Lapで規定周回数をクリア、完走扱いとなった。

## ■総評

今シーズンの3強と言えるチームが一同にかいしての4時間のガチバトル、昨年の王者が貫禄を見せた形になった。#21「ZEST ルブロススターレット」もポイントを伸ばして、ランキングトップを堅持、#411「AITAC スイフト」も優勝まであと一歩という所まで来ており、それぞれの収穫と課題が見えた戦いとなった。4位となった#107「ウエリース ロードスター 1号」も、表彰台をうかがう走りを見せた、もう一歩の速があれば、近いうちに達成されるであろう。

ENクラスでは大きなトラブルなく走り切った#77「ウエリース ロードスター 2号」が順当に、シリーズストップ。#12「アンリミ&今井製置シビック」も完走扱いで嬉しいポイントを持ち帰った。



連続勝利！ #77



1Lap 差で見事完走！！ #12



1+2 クラス



EN クラス



予選から好調で初優勝！！ #2



中盤は得意のパターンだったが #110



開幕戦以来の3位表彰台 #106



トラブルに泣く #62



## 「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクロズドクラス）

開幕2連勝で波に乗る#110「DXLアライメント浜松レビン」に対し、ニューマシンS2000を2位に持ってきた#2「スピードハートIDI AP1」、そして王座奪還に燃える#62「WN ワコーズCLNシビック」、今大会唯一の輸入車を駆る#106「D&M スパイクオート106」と実力チームが揃った3Cクラス。

なかでも注目目は#2「スピードハートIDI AP1」S200、第2戦では少しセッティングがあっていない面も見受けられたが、今回は微調整して臨むとのこと。ポテンシャル的にはナンバーワンとも言えるS2000がどこまでそのポテンシャルを発揮するかが鍵となるであろう。

### ■予選

予選トップはやっぱりキタ～#2「スピードハート IDI AP1」が1'02.097。タイムこそ01秒台には入らなかったが、この時期を考えれば上出来。さあ4時間先のゴールまでこのポジションを守れるか。

2位は#62「WN ワコーズCLNシビック」が1'02.763、ホンダ車遣いとしての意地か、シビックをフロントローに並べた、ここは久々の優勝が見えたか。予選3位は#110「DXLアライメント浜松レビン」1'03.194、開幕からの連続予選トップは途切れたが、逆転での3連勝、ハットトリックを狙う。

4位は#106「D&M スパイクオート 106」1'04.753、東海シリーズきっての輸入車遣い、シリーズ発足以来相棒は106だ。

### ■序盤

序盤から飛ばすのは#2「スピードハート IDI AP1」、まずベストタイムを出して逃げにかかる。追いかけるのは#62「WN ワコーズCLNシビック」、こちらも02秒台でぴったりマーク。そしてその争いの隙を突こうと狙う#110「DXLアライメント浜松レビン」、さらに序盤は引き離されたくない#106「D&M スパイクオート 106」も食らいつく、いきなりの濃密バトル。こんなのでみんな4時間もつの～！？

### ■中盤

中盤は#110「DXLアライメント浜松レビン」の見せ場、宿敵ホンダ車（とかってにレポーターが思ってるだけですが）を向こうに回してのトップ走行。レビン対シビック、ああ青春のグループA。

#2「スピードハート IDI AP1」は早めのピット戦略で様子をうかがう。

ここで#62「WN ワコーズCLNシビック」にトラブル、コースアウトで後退を余儀なくされる。さらに直接の原因かは不明だが、オイル漏れがあり、ピットでの作業…結局修復できず52Lapで戦列を離れることに。

これにより#106「D&M スパイクオート 106」が3位に浮上。

# Race Report

## ■終盤

いつもならチェッカーを迎える頃になっても戦いは激化、これぞ 4 時間戦。3 時間走って#110「DXL アライメント浜松レビン」148Lap、ピット明けからの追撃を図る#2「スピードハート IDI AP1」が 147Lap とその差は 1 周。

3 位#106「D&M スパイクオート 106」は 143Lap だが、今大会は午前中の K 耐久も含めてマシントラブルによるリタイヤが多い。

すでにこのクラスにおいても#62「WN ワコーズCLNシビック」がレースを終えており、現在上位を走行するマシンにも何が起こるかわからない状況、少し日が陰り、タイヤのグリップ集中力が落ちてきている、4 時前後はなおさら注意が必要だ。

## ■最終結果

ピットクローズド後にトップに立った#2「スピードハート IDI AP1」がそのままチェッカー、S2000 に初優勝をもたらした。最終ステイントで追い込みきれなかった#110「DXL アライメント浜松レビン」が 2 位、最後まで堅実に走った#106「D&M スパイクオート 106」が 3 位という最終結果。

## ■総評

3 連勝とはいかなかった#110「DXL アライメント浜松レビン」だが、25P を獲得して 65P と伸ばした。今季初優勝の#2「スピードハート IDI AP1」が 30P で 45P とトップとの差は 20P。場合によっては第 4 戦でチャンピオンが決まるか。

3 位に入った#106「D&M スパイクオート 106」がシリーズでも 3 位に浮上、#62「WN ワコーズCLNシビック」は無得点で残念な結果に。

さあいよいよポテンシャルを発揮した S2000、一気に台風の目になるか、これからも注目。



う、ウエイトじゃないんだからッ (。>\_<)。





今季初参加で優勝 #44



調子良さそうに見えたんですが #405



こちらもリタイヤ #58



素人 Vサイン!?

全員で反省です…



## 「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

ドライバーの都合がつかず連勝中の#19「YADOKARI シビック」が不在なのは寂しいが、#44「ルプロス Tファクトリーシビック」、#58「小林板金 EG6」の2台のEGシビックが出場、それに”昭和な”#405「インフィニティー FX」の計3台。

### ■予選

予選は#44「ルプロス Tファクトリーシビック」、1' 03.686 がトップ、#405「インフィニティー FX」もタイムを上げて 1' 04.367、3番手の#58「小林板金 EG6」1' 09.425 は少々不本意か、決勝での巻き返しに期待。

### ■序盤

序盤からトップを行く#44「ルプロス Tファクトリーシビック」は早めのピット戦略。全日本ダートドライバー、元全日本ジムカーナドライバー、S耐ドライバー、最強の素人(自称:宇宙人ともいう)…と豪華なドライバーラインナップ。

#58「小林板金 EG6」も徐々にペースを取り戻す。

#405「インフィニティー FX」に第2先に続き試練が。予選から快調に飛ばしていたが、ラジエターが割れて、リタイヤ。

### ■中盤

ほぼ一人旅となった中盤、#44「ルプロス Tファクトリーシビック」。ミッションの加減で途中オーバーレブしかかるが、ドライバーの機転で事なきを得る。ペースを刻んできた#58「小林板金 EG6」だったが、こちらもエンジン不調でリタイヤ。

### ■終盤

あとは自分との戦い#44「ルプロス Tファクトリーシビック」。

### ■最終結果

総合優勝は逃すが#44「ルプロス Tファクトリーシビック」が一人旅。

### ■総評

次々とリタイヤしてしまったのは残念だったが、そんななかでも#44「ルプロス Tファクトリーシビック」が、しっかり走りきっての優勝。自称最強の素人も、マシンの様子を見ながらさすがの走りを見せた。